

戦時学徒訓練実施要綱が発令された。待詫びて居たものだ。がまあ安心した。又日本人の窮屈さを暴露する様な結果が到来するものと秘かに心配して居たんだが、

ホッケーも何とか残った。と云ふより表向には出さないが、内々には認めてない様な書振で、一日一回の体育訓練の余暇にはやつてもいゝことになったが註が付てゐて、特技とは闘球その他適切なるものとして、その他の種目は当局の口吻では、ア式蹴球、籠球、送球に限ると云ふ様なことで、他の種目は学校長の採択に託すとある。そこで暗に他種目の全廃を、要望してゐる。男子では睨まれたものは、庭球、野球、排球、杖球と云ふ話だ

差当って我々の問題の中心点は、軍、文部当局より、塾長へと転化した訳だ。嘗て我体育会庭球部の選手たりし塾長さんの考は？四月二日附東京新聞を見て流石は我等の塾長さんと、手を合せて拝みたくなった。

小泉さんは言ふ！この案には賛成する。大学は士官を養成する所だ。従つて学徒体育が従来の娯楽本位的なもので決して良からう筈はない。然し、従来の体育にもその「良さ」があつた。今回の実施要綱を十分活用する為には従来の体育の良さを付加せねばならない。戦技は射撃と銃剣術が行はれてゐるが、その重要性に比しこの方面の練成が不十分であつたことは否めない。一例をあげれば行軍力である。これは徒歩通学とか学科の一つとして行軍力増強に努めることも考へられる。たゞ行軍力を養ふとか、射撃をやる事とか云ふものゝみを練成すればいゝと云ふのでは、学徒体錬もスタートの華かさに比し、永続させぬであらう。一様に課せられたものでなく学生が若き情熱を傾け得る興味的要素を盛る事が長い効果の為に望まれねばならぬ。

運動選手の中から立派な軍人を出したと云ふ過去の事例は運動競技自身の中に之を肯定させる要素を含んで居た。即ち数々の試合の中に養成された闘志、勝敗の転機を掴む直感力、忍耐力がそれである。決戦下の学徒体錬方向の修正の必要を痛感する一方この体錬が従来の運動が与へた三つの精神訓練的要素を十分取入れる様な方法を持つ事も必要であらうと思ふ。精神的にも肉体的にも画一に陥らぬ様、学徒の熱意を十分結集する様な方向に学園の体錬を導くことが大切である。

やはり塾長は一寸違ふ。結局従来の方法も活用することを断言し、行軍射撃のみが練成でないことを痛快にも喝破して呉れた。こう云ふ人々が居る間は日本は未だ大丈夫だ、安心々々。